



若あゆ



積雪から思う地域のコミュニティ

校長 米原 大司

新年あけましておめでとうございます。年末年始は穏やかな天候が多かったように感じます。能登半島地震から2年が経ちましたが、いまだ多くの方が仮設住宅で暮らされているとのこと、一日も早い復興を心からお祈りいたします。

さて、1月2日には、今シーズン初めてのまとまった積雪がありました。積雪の時間はさほど長くありませんでしたが、降り始めが日の落ちた頃でしたので、時間の割には翌日に雪が残るほどの積雪でした。秩父の三峰神社では、近くの県道が通行止めとなり参拝客が100名以上取り残されるという報道もありました。普段雪に慣れていない私たちですので、積雪の予報が出た時には、しっかりと備えをしなくてはならないと改めて感じました。

その後、5日に学校に立ち寄りましたが、学校周辺に雪が残っていないことに驚きました。私の住まいは市内の緑区ですが、冬季は朝の気温が浦和区と2℃ほど違います。もちろん緑区の方が低いのですが、今回の積雪も自宅付近の道路は、幹線道路以外は除雪なしでは自家用車の運転が困難な状態でした。

我が家周辺は10軒ほどの家が集まっており、その住民を中心に利用する道幅の狭い道路があります。道路の半分以上は、一日中、日が当たらず、放置すると路面がアイスバーン状態になり大変危険です。その道路は関係の地域住民が除雪をしますが、毎回特に打合せもなく、除雪をしようと思った人が除雪をします。例年は、できるだけ早く学校の除雪をするために、自宅周辺の除雪は私がいの一歩に行うのですが、今回は学校が休みだったこともあり、一番手は他の人が2日の夜に行っていました。スコップの音から2～3家庭が除雪したと推察します。

翌日に窓から道路を見ると、思った以上の積雪でした。思わず「しまった」と声を出しました。車や人で圧接された雪は固くなり、除雪がしづらくなります。ちょっと後悔しながら、除雪を始めました。そうすると、何軒からか応援が来て、1時間ほどでここまで除雪すれば大丈夫という状態になりました。普段は2～3軒の方しか交流がありませんが、作業をすると、日頃には顔を合わせない方とも自然に会話も弾みます。後日、ゴミ出しをした時に近所の方から「先日は、雪かきをありがとうございました」などとお声掛けをいただき、朝からとても清々しい気分になりました。

関東圏では近いうちに大きな地震が来るのではとされています。学校等の公共施設は避難所となっていますが、収容人数には限りがあります。最近では、何が何でも避難所に行くのではなく、自宅の状態がよければ「在宅避難」をすることが推奨されています。そんな時に、地域の方といかに励まし合えるか、支え合えるかということが大切です。これからも地域の一員として、自分なりにできる貢献をし、地域の方とのコミュニティを大切にしたいと思えます。

